

33 「教育協働」の眼目（ゴール）は、「普通の上等」を作り出していくことでも?!

堂本 彰夫

(1) 「統一（性）」と「多様（性）」のゆらぎ、否、対峙？改めて、それが示唆するものは?!

とにかく、現状の「教育」が、学校教育、社会教育共に（「家庭教育」もだが!）、その力を十分に発揮することが出来ず、その機能そのもの（極端に言えば、存在?）が危うい状態に陥っていることは間違いない（ということは、社会全体の危機だということでもある!）!もちろん、その原因は、関係者が手を抜いたり、責務を放棄したりしたからではない（一部?そのようなことがあるのかもしれないが、全員が精一杯頑張ってきたのではある!）!社会全体の状況が変わり（しかも、急激に!）、既存の法制度や、それに基づいて手当される予算や要員配置が、ほとんどそれに対処出来なくなってしまうということである!かつて、それを予見し、超克するために（これは、真実である!）、「生涯教育（学習）」の理念（「急激な社会の変化」＝「少子高齢化」「国際化」「情報化」及び「成熟化」への対応→「生涯学習体系への移行」→学校教育の再編+学校外・後教育の充実）が提唱されたわけであるが（ちなみに、我が国では、このような枠組みでなされた!）、ある意味それが、再び（否、今となってはギリギリのところまで追い込まれて?）、そして、形を変えて必要とされているということである（キーワードや括り方は変わったが、本質は変わっていないということ!）!

しかるに、これまで、その時々に関係者の熱意と努力によって、様々な施策や方向転換も進められてきたとは言えるが（数え上げればキリがない程に!）、残念ながら、その甲斐もなく（こう言えば、関係者に叱られるかもしれないが!）、学校教育では、いじめ・不登校等の増大、教職員の疲弊・成手不足、社会教育では、予算の逼迫、行政上の不整合、関係諸団体の衰弱（特にPTA?）等が進んでおり、とてもじゃないが、この大きな課題に対応するだけの力がない（思いはともかく?）?!だから、私自身は、改めて「教育協働」という概念（行動イメージとも言うべきか?）を提案し、学校教育・社会教育双方の関係者の、新たな連携・協力の形を構築しようと呼びかけてきたわけであるが、なかなか力強い歩みは見られない（個々の課題対処で精一杯である?ただし、局所的、散発的には、それに相当する姿・形が作られている/つつあるとは言える!）?!

ということで、ここでは、かねてより主張している、制度/取り組みの「統一（性）と多様（性）の相剋?」という観点から、改めてこれから必要となる「教育協働」の最終ゴール、否、実際は「眼下の目標」（多くの人が、無条件に賛同、共有できる目標）のようなものを提唱しておきたいということである!要は、多少我田引水的ではあるが、私の主張する「教育協働」の最終ゴール（眼下の目標）が共有出来なければ、事態は、なかなか好転しないということである（個別の課題への対処で、それぞれは精一杯ということ!）!実は、その鍵を握っているのが、意外と思われるかもしれないが、「普通」というものの存在意義であり、その価値を維持する（否、高める!）ことの必要性だということである!現在、「多様性」の主張、裏を返せば「統一性」の弊害の指摘が多方面に亘ってなされているが、そこにある多くの人の努力の成果、すなわち「普通」（の質）へのまなざしが、そこで見失われているのであれば、それこそ本末転倒となるからである?!

(2) 「正規分布曲線」からみた「普通」の意義!軸を右側に動かす力（場や関係）、それが必要なのだ!

どういうことかと言うと、人間の能力（否、ある状態）は、全体としてみれば、どんな局面においても、高い（良い）とか、低い（悪い）とかというような状況分布になる!つまり、みなが同じ能力（状態）を有しているのではないということであるが（もちろん、様々な条件/努力の違いにより、その差が出て来るわけであるが!学力などというものは、その顕著な例である!）、いずれにしても、通常は、その真ん中の数が最も多いということになる（いわゆる「正規分布」!それが、正常ということでもある!）!だが、その数が最も多いということをもって、「大多数→普通」ということにもなる!言葉のニュアンスはともかく（ただし、これが曲者なのではあるが!）、その存在は、それ以上でも、それ以下でもないのである!それが、自然の摂理であり、そのことを卑下したり、自らを委縮させたりすることは無用なのである!それよりは、その「普通（大多数）」の質が劣化しているということがあれば、その「劣化」こそが問題なのであるということである!

そこで、その具体的なイメージをもってもらうために、かの数学上の「正規分布曲線」を用いて説明すると、通常のは、座標のY軸を軸として左右対称の山形の曲線（真ん中が高く、両端が低い）が描かれる!そして、それは、おそらく人間の状態や行為の結果を示す場合は、ほとんどが、その「正規分布曲線」をなす!もし、それをなしていない場合は、何かが異常であったり、何らかの作為が働いていたりということになる?!その具体例は、ここでは示すことはしないが、要するに、問題は、その正規分布曲線がいびつであったり、そもそも山形となっていなかったりする場合である!例えば、その山がどちらかの極に偏っていたり、極端な場言は、二コブの山が、それぞれの象限にあったりする場合（二極化）である!

尤も、実際の結果は、すべて理論通りにはいかないもので、そのそれぞれの結果については、その原因説明や対処法等が、個別に措置されればよいのであるが（そのままでもよいものも、当然ある？テストの結果等？）、私がここで問題として挙げたいのは、「ニコブ山（二極化）」と、もう一つは（こちらの方が、より深刻！）、一見、正規分布を成しているが、実は、その個々のスコア（絶対数値）が、全体的に下がっている場合である！視覚的には同じであるが、軸となっているY軸の座標自体が、左にズレているということである！ただし、この場合にも、最も多い部分はあり、それが、大多数（普通）ということになる！だが、明らかに、普通の「質」が落ちている！だから、全体としてもそうであるが、人数が多いということだけで、その評価をしてはいけないということでもある！そして、やはりそこが、最重要問題ともなるということである！

ただし、たとえそうであったとしても、それ自体を、すぐに何とかすることは難しい！しかも、それを、ある特定の結果だけで論壇することは、かなりの誤解を招く?!しかも、そもそも数値化することの出来ないものも多々ある（アンケート調査等も、そのそしりは免れない?）！何を言いたいのかというと、ある特定の結果や傾向に目を向けることには限界があるということであり（混乱も招く?）、それよりは、これだけは、すべての人にとって重要であり、そのことを、より注視することが必要だという意識を共有することが重要であるということである！そして、それは何かというと、グラフで言うなら、みんなで、Y軸を右に移動させていく力が必要だということである！しかも、その力の鍵を握っているのは、まさに山にいる（普通ということになる）人達の意識や努力ということになる（それが、最後には、全体を押し上げる力となるからである!）?!

(3)「普通の上等!」、「精一杯の普通!」、それを大事にする社会が健全な社会であり、重要なのだ!

ところで、かつて私は、沖縄の泡盛のコマーシャルで、「この商品は、『普通の上等!』という謳い文句」を聞いて（見て）、何故か、ほのぼのとした気持ちになったことがあるが、そうなのだ!この「普通の上等」がいいのだ!改めて、そう思うのである!決して自己嫌悪でもなく、僻みや妬みでもなく（多少自虐的かもしれないが?）、そのように言える、振舞えることが大事なのだと思うのである（売り上げが上がったかどうかは分からないが、ある時ちょっとしたブームになったことは事実である?!）!とは言え、やはり、普通は嫌だ!みなと同じは嫌だ!違っていたい!もっと上になりたい、自分の個性を發揮したい!etc. 様々に、人は思う!そして、挙句の果てには、そのような言動が取れる人は、そういう境遇にはない、つまり恵まれている人だと、そのように思うのかもしれない（多分、それは、ある意味当たっているのかもしれないが?）!

しかるに、その気持ちはよく分かるし、それを社会に向かって大声で叫びたいということも、同様によく分かる!貧困とか、障がいとか、差別とか、挫折とか、耐えきれない仕打ちや苦痛を被った人であれば（否、逆に、そうしたことを加害者として行った人は?）、なおさらかもしれない?!そして、その延長線上で、個々の個性（多様性）を伸ばす、活かすということが、健全な社会の目指すべき方向性だということも、よく分かる!ただ、それは、多くの人の「普通」を無視する、さらに言えば、その普通を壊すことであってはならない!「学びの多様化学校」とか、様々な方途による「学びの多様性」の保障は、その普通を享受出来ない（努力しようにもそれが出来ない）人にとっては、社会が、全力を挙げて成就しなければいけないが、それが、かの「負の連鎖」によって、「普通」の質の低下を惹き起こすのであれば、元も子もない?!

ちなみに、ここで言う「負の連鎖」とは、どんな集団でも、その内部力学として、例えば「出来る子、出来ない子」というような序列が出来てしまうということであるが、下手をすると、新たな正規分布曲線を増やしてしまうだけに終わるかもしれない?!もちろん、それで、短期ではあっても、救われる人が多ければ、それでよいのかもしれないが、全体としてみれば、必ずしもそれが得策とは言えない?要は、長い人生の中で、それぞれが、自分の人生をどう生きるのか、どういう知識や技能を身に着けて、社会の一員として活躍できるのか?そういう視点でみていくと、多様性の過度な主張は、却って社会に混乱や分断を招く!しかも、多くの「普通」の人の力を、削ぐことはあっても、それを伸ばし、活かすことが出来なくなる?!余談だが、いわゆる無党派層や「我、現実社会とは無縁なり!」といった人々は（実際には半数近くいる?）、おそらく、その「普通」に愛層をつかした人か、裏切りを重ねられた人かもしれない?!

これもまた、何を言いたいのかということであるが、大事なものは、各自の多様性（もともと人はみな違う!）を活かしながら、全体として成り立っているもの、すなわち「統一（性）→普通」を大切にしていくことだということである!そのためには、一人ひとりの自覚と努力が必要であり、とりわけ大多数の「普通」の人の振る舞いが重要だということである!だから、為政者（学校の先生も!）には、その多くの「普通」の人間（生徒）が、ちょっとでもいいから、頑張ってみよう、そう思えるような施策（場や関係）を手当てすることも（が?）必要なのである（声の大きさや一過性の「流行」の部分に翻弄されてはいけない?）!これが、Y軸を右に動かす力となるわけである!「普通」が頑張れば、全体が変わる!その力を、学校教育と社会教育の協働（教育協働）によって、生み出そうということなのである!（つづく）